

ケアセンターけやき(訪問看護)

症 例 概 要 利用者氏名 70歳代 男性 要介護3

利用期間 令和4年2月～現在

既往歴 脳梗塞、心房細動、頻脈、脱水、構音障害、嚥下障害

経 過

脳梗塞後遺症により軽度運動麻痺と構音障害および嚥下障害を認める中、「ホノルルマラソンのコースを歩きたい」という明確な目標を持ち、令和4年2月より訪問看護と通所リハビリテーションを併用していた。令和7年8月にハワイ旅行が決定し、目標達成に向けて意欲的にリハビリに取り組んでいたが、旅行直前に体調変化がみられ緊急入院となった。一時は旅行中止も検討されたが、入院中から退院前カンファレンスにてけやきスタッフが医療機関とも連携し、出発1週間前に退院となり、限られた準備期間で訪問看護・通所リハビリテーションが再開となる。

内 容

脳梗塞発症前に参加し走っていたホノルルマラソンのコースを「もう一度歩きたい」という明確な目標を持ち、令和4年2月より訪問看護と通所リハビリテーションを併用し、目標達成に向けて意欲的にリハビリに取り組んでいたが、令和7年6月、咳嗽および全身脱力により、他院へ救急搬送され脱水の診断で入院。7月に地域包括ケア病棟へ転院となる。入院中は頻脈、食欲低下、便秘などの影響によりリハが思うように進まず、1週間ほど寝たきりの状態が続いた。その結果、さらなるADLの低下がみられ、ご本人・ご家族ともに強い不安を抱えており、旅行に行くことも諦めていた。

7月、退院前カンファレンスが開催され、訪問看護師および通所リハの担当者が参加した。ご本人は、頻脈などの状態により満足なりハビリを受ければ、精神面、身体面共に低下しており、8月に予定していたハワイ旅行もキャンセルを検討している声も聞かれた。しかし、けやきスタッフと顔を合わせる事で安堵され、また医療機関を含めたチームにてハワイ旅行に向けた計画を再調整する事で再度ハワイ旅行に向けて意欲的な発言も聞かれるようになる。状態は次第に軽快し7月に自宅退院となる。退院1週間後にはハワイ旅行を控えており、特別訪問看護指示書により退院当日から訪問看護を開始する。看護師により家族へ喀痰排出・手動式吸引器の使用方法、食事や水分摂取時の注意点を指導。言語聴覚士は長時間フライト（約7～8時間）を見据え、水分ゼリーや高カロリーゼリーの提案、現地食文化への対応策を共有し、さらに機内で身体を安楽に保つためのポジショニング指導を行った。通所リハビリでは、現状の動作能力に合わせた移動手段の再確認、旅行時を想定した動作指導、旅行日程を確認し無理の無い旅行日程の提案を行い、注意点をご家族にも共有した。準備を整え8月上旬に自信を

持ってハワイへ出発し、マラソンコースの一部を歩くことができ旅行を満喫された。

ハワイから帰国後は食欲が回復し、意欲的な発言も増え、8月末には奥さんとともに長野旅行に出かけるなど活動的となる。

けやきスタッフの継続的な関わりと親身な対応が、安心を提供し自信を取り戻す原動力となり、諦めかけていた旅行が実現出来た。

【OUR TEAM】

○奥様（キーパーソン）娘様：傾聴と励まし・吸引技術の習得による在宅生活での安心の獲得・ハワイ旅行実現への原動力○ケアマネジャー（CM）：ご本人ご家族の要望や思いに配慮した支援計画の立案、訪問診療の導入、病院の医師・看護師・リハビリ職員と在宅支援の多職種連携の推進○病院医師：在宅生活やハワイ旅行を視野に入れた治療と訪問看護への特別訪問看護指示書の発行○訪問診療医師：在宅における健康管理、緊急時の対応○訪問看護師：体調管理・医療的観察・在宅における吸引指導・療養生活指導と不安への寄り添い○訪問ST：嚥下状態の観察と指導、旅行中の補食・補水の準備と指導○通所リハビリセラピスト（PT）：退院後、毎日1回20分間の個別運動プログラム実施・活動意欲の引き出し・筋力の維持向上○通所リハビリ職員全体：ハワイ旅行への意欲の維持向上・交流の場の提供・社会参加促進・安心できる雰囲気づくり